HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アンケート結果
Citation	北海道大学教職課程年報, 9, 69-71
Issue Date	2019-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75241
Type	other
File Information	10_2185-9809_9.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

＜アンケート結果＞

【シンポジウム受付者数68名（登壇者・スタッフを除く）／アンケート提出枚数　44枚】

Q1．世代、居住地、ご職業等について

A)　世代について教えて下さい。

10代　2名、20代　17名、30代　0名、40代　6名、50代　17名、60代　2名、70代以上　0名。

B)　居住地について教えて下さい。

札幌市内　30名、札幌市外　14名。

＊札幌市外は、江別市、岩見沢市、釧路市、積丹町、当別町、長沼町、雨竜町、上士幌町、空知管内。

C)　ご職業について教えて下さい。

教諭　10名、行政関係　9名、研究者　5名、学生・院生　17名、その他　3名。

＊その他は、小学校長、中学校長、NPO法人。

Q2．このシンポジウムを何で知りましたか。

メールによるご案内　1名、北海道大学のホームページ　4名、

ポスター・チラシ等14名、知人からの紹介　14名、その他　12名。

＊その他は、登壇者からの紹介　3名、大学講義での紹介　7名、SNS　2名。

Q3．本日のシンポジウムのご意見・ご感想（ホームページ等への掲載可のもののみ）

・私自身、釧路・十勝・日高、そして空知と4管内を経験し、年齢構成の違いを肌で感じていたところです。北海道の教育課題を鳥の目で見て考えるよい機会となりました。(教諭)

・広大な北海道の多様性のなか、人材育成・教師教育の重要性をあらためて痛感いたします。課題共有が今日のシンポジウムの収穫でした。(教諭)

・「大学の先生は、現場を知らない」との思い込みがありましたが、まったく誤解でした。篠原先生、姫野先生のプレゼン、根拠データ含め、たいへん勉強になりました。(教諭)

・普段とは別な観点から、現場のことを考えるよい機会でした。フロアとのやりとりがもっとあった方が良かったです。(教諭)

・「うらほろスタイル」プロジェクトが参考になった。学校の教員にも、子の意義を深く考えてほしい。教育関係者の話だけだと重なりも多いので、知事部局の職員なども1名くらい登壇しても良かったのでは？（行政関係）

・地域が子どもや学校を求めていることはわかっていましたが、今回のお話を伺い、改めて、学校が地域に何を求めるかを考えなくてはならないと思いなおしました。また、子どもが地域を求めることができるように、学校がいかにして学ばせ、支えるか考えていきた

いと思いました。(行政関係)
・本道の課題をふまえたシンポジウムは、時宜を得た内容である。多様なお話を拝聴できて有意義であった。(行政関係)
・北海道の教員をいかに育てるのか、さまざまな点で考えるよい機会となりました。(行政関係)
・各々の方のお話から、さまざま触発されるところがありました。(行政関係)
・シンポジウムの形式について、「質問紙を集める」ことをやめて、直接フロアとのやりとりにするだけでも変わると思います。やはり、これではみなさん消化不良です。(行政関係)
・教室内が寒いため、環境の改善を。PC 関連の機器で、レーザーポインター等をしっかり準備しておく。(行政関係)
・北海道が抱える問題についてたいへんよくわかりました。地域に寄り添った教育のあり方について考えるよい機会になりました。(研究者)
・教員養成校の立場から、有益な示唆をいただきました。(研究者)
・知らないこともいろいろとわかり、たいへん勉強になりました。「北海道、地域」を中心におきながらも、全国的な状況や流れとの関係(位置づけ)も、話題にあげていただけると、なお良かったと思います。(研究者/元教員)
・これからの教育を改めて考えることのできる機会になりました。具体的な管内ごとのデータや、今現在の教員に対する研修などを知ることができ、良かった。(学生・院生)
・北海道における教育課題について、多角的に確認するとともに、具体的な実践や知見についてきくことができ、とても勉強になりました。教育における支援者である「教員」の学びというものの難しさ、また重要性について考えることができました。(学生・院生)
・実際に、2年後には北海道で教員として働く身として、地域の課題について知っていたつもりであって、現状をまだ理解できていなかったことを痛感した。自分自身もより学んで、積極的にシンポジウムに参加したい。(学生・院生)
・地方教育の現状と課題について、多方面の方々から、とても興味深い話をきくことができ、自身にとって有意義なものとすることができました。(学生・院生)
・北海道における教育の課題というテーマでしたが、教師の立場、子どもの立場、教員養成の立場、学校経営の立場…と観点の多様さによって、自分の考えを深めるきっかけになりました。(学生・院生)
・公教育として学校という立場を守ることはよく語られますが、管理職に組織経営の発想が乏しいという点においては、経済学的視点が重要なのではないかと思いました。(学生・院生)

Q4. 今後企画してほしい内容がありましたら教えて下さい。
・教師のライフヒストリー、学びについての研究など
・地域格差と学力格差(教育格差)

・限界集落町村での小中学校の存続問題（１つの自治体だけでは小中学校の設置が難しくなるのでは？）
・今回のテーマ、第２弾
・教員養成における「地域の特性への理解」教育など（宮前先生の内容をもう少し詳しく教授していただけるような内容）
・子どもの学びや発達に関する内容（今回は教師にスポットをあてた内容だったため）。北海道の子どもたちの特徴を広い視野で考えてみたい。
・実践とその背景にある理論の関係がわかるような取り組みの紹介。実践者（教員？）と理論家（研究者？）の協働による取り組みなど。
・教員採用試験受験者の減少
・教員の自主的な研修ネットワーク
・学生中心に、小規模学校についての内容
・公立高等学校における、都市部校と郡部校との格差（学力、進路等）の解消方法